

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1173200930		
法人名	株式会社 メディカル・コンサルタンツ		
事業所名	グループホーム いこいの里		
所在地	埼玉県比企郡鳩山町大橋984-1		
自己評価作成日	令和4年1月6日	評価結果市町村受理日	令和4年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地		
訪問調査日	令和4年1月18日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>①利用者本位の日常生活の中でご利用者様が出来る家事等に参加して頂き、やりがいや楽しみを多く持って、喜びや張り合いが築ける様に支援している。</p> <p>②ご家族様にご利用者様の状況をお手紙や面会時に報告し、安心感を持って頂けるように取り組んでいる。毎月日常生活の写真と年4回のホーム便りをお渡しし、ご家族様にホームでの活動等についてご理解いただけるようしている。</p> <p>季節ごとのイベントや行事食に力を入れて季節を感じながら楽しんで頂けるように取り組んでいる。中庭を活用し、季節の花や野菜の収穫に楽しみや喜びを感じて頂いている。</p> <p>③朝の体操や散歩を行うことで身体機能維持強化に取り組んでいる。</p> <p>④地域との連携:提携病院への受診は職員が付添い医療との連携を強めている。</p>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>東武東上線高坂駅よりバスで約15分、徒歩で約10分、自然豊かな環境にある平屋建、2ユニットのグループホームである。ユニットはA棟とB棟に分かれており、廊下で繋がれ相互に行き来をしている。ホームの方針として、出来ることは積極的に参加いただき、家事などを楽しく行い、やりがいのある毎日を過ごして頂けるよう支援している。コロナ禍での生活を強いられている中、季節のイベントや行事食に力を入れ、ストレスの無い日々を過ごして頂き、家族との繋がりを大切に、生活の様子を定期的に便りなどで発信している。また、地域との連携にも努めており、すぐ近くにある協力医療機関及び歯科への受診には職員が付き添い、適切な医療が適時受けられるよう、支援を行っており、家族の安心に繋がっている。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します(A棟)**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に「地域との連携によるご利用者様本位の生活の場を鳩山で」を掲げ、日常の中で必要に応じて随時伝え、実践に取り組んでいる。	「地域との連携によるご利用者様本位の生活の場を鳩山で」を理念に掲げ、管理者は玄関に掲示して目に触れるようにしている。会議の中でも話をして日々の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入っている。コロナ禍において、地域の行事等も以前に比べると交流の機会が減ってきているが、地域の動向を見ながら情報を共有出来るよう努力している。	自治会に入会しているが現在はコロナ禍の為、自治会行事も中止になっており参加はできていない。天気の良い日には近隣の散歩に出掛け、地域の人とあいさつを交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの相談の際にはホームの特徴として認知症を理解して頂くように説明し、支援の方法等を地域の人々に伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月毎に行ない、2ヶ月間の事業報告等を通し理解を得ている。話し合いの中で伺った意見はサービス向上に反映するよう努めている。	2か月毎に運営推進会議を開催しているが、コロナ禍の為、参加者が集う形式はせず、報告書を手渡したり、郵送にて状況報告を行っていたが、10月と12月には従来形式で開催し、久しぶりに参加者との交流ができた。	コロナ禍の感染状況を踏まえ開催しているが、行政、包括支援センター、自治会長、民生委員、家族等と情報交換や運営への意見の吸い上げを継続し、サービス向上に活かしていくことを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	長寿福祉課、地域包括支援センター等と密に連絡をとり、相談しながら連携をとっている。事業所会議に参加し、情報や意見・助言等頂いている。	管理者は地域ケア会議に出席したり、電話や介護保険証の更新手続きなどで直接町の担当者を訪問したりして協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関してはH28年1月よりご家族様同意の下、安全確保の為に日中施錠して対応する方向に変更している。居室の鍵はご利用者様が掛けることはあっても、職員が掛けることはなく、自由意志での行動を見守っている。	身体拘束に関する外部研修に参加し、参加者による内部研修を行い、全職員へ伝達しみんなで共有している。職員も正しく理解し、拘束をしないケアに日々取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止等に関する研修に参加する機会や内部研修の機会を設けて、虐待防止に努めている。虐待防止宣言を掲示している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護等に関する研修に参加する機会や内部研修等の機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結・解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約等の時には、ご利用者様やご家族様と契約書・重要事項説明書等を読み合わせ、丁寧に説明し、不安や疑問点を伺い、十分な理解を得た上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様やご家族様の意見や要望等に関して、伝えられる環境作りを行い、コミュニケーションを心掛けている。玄関に意見箱の設置や第三者委員の連絡先を明示し職員以外にも伝えられる環境が出来ている。	家族の意見、要望は電話や面会時を捉えて伺っている。玄関には意見箱や第三者委員会の連絡先を明示しているが、運営に関する意見を頂くことはほとんどない状況である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ユニット別の会議の他、リーダーとの打合せ、週報の報告を通して意見の分析を行っている。職員の意見や提案を運営に反映させている。	職員専用の意見箱を設置しており、意見があった場合は月1回の会議を待たずに検討しており、会議は活発な話し合いが行われており、出された提案などは代表者、管理者が検討の上、運営に反映している。定期的にマニュアル改定の検討もしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務評価は昇給、賞与支給時に作成する人事評価へ反映している。就業規則の整備に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、外部研修や内部研修を受ける機会を計画し、実施している。外部研修参加費用交通費は自社持ちにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連絡会を通じ実態の把握を行う。地域の方々と運営推進会議の場をもち、情報交換サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様と会話を多く持ち、不安や要望等充分耳を傾け、ご利用者様の意志や希望を尊重しつつ、不安軽減の対策や声掛けに努め、職員との信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が困惑している事、不安な事等に傾聴姿勢を重視して、信頼関係作りに努めている。入居後の様子を連絡し安心感が得られるよう対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にご利用者様とご家族様が何を求めているか確認し、いこいの里の方針を説明しながら、他の介護サービスの説明も同時に行ない、ご利用者様の選択を広げる様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様と共に生活を送り、共に助け合っていく関係を築いていき、また、人生の先輩であるご利用者様から生活上の知恵等を教えて下さることも多く、支え合う関係が築かれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の面会時等、ご利用者様の近況をお伝えし、ご利用者様とご家族様が入居後もより良い関係が築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様の馴染みの人との面会を受け入れている。馴染みの場所に関してはご家族様の協力を得ながら支援に努めている。	コロナ禍であってもできるだけ馴染みの人との関係継続の支援を行っており、家族同伴で来る友人や親せきの人にも会って頂いている。家族や友人の電話取次支援を行い、関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活を通じ、ご利用者様同士が関わり合えるよう取り組んでいる。ご利用者様の個性を尊重し、必要に応じ、ご利用者様同士の間に職員が入り、より良い関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了した後もご家族様に、その後の状況を確認し、必要があれば相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望する生活か日常の事等、ご利用者様の意向を聴きとり、意向に沿ったケアプランを作成している。聞き取りが困難なご利用者様には日頃の様子とご家族様の意向を確認して、検討している。	介護計画の見直し時などの機会を捉え、家族より情報を取り入れ思いや意向の把握に努めている。一人ひとりの思いや意向を捉えるため、日々の様子をよく観察している。職員は本人の変化などを連絡ノートやラインを活用して共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活習慣等の情報をご家族様や関係機関の協力を得ながら把握する様に努めている。入居後もご利用者様の習慣等を大切にしたい生活になる様に心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申送りや定期的なアセスメントやモニタリング等で、ご利用者様の心身状態や有する力等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様やご家族様の意向を聞き取り、日々の生活状態等からケアプラン(案)を立て、ご利用者様、ご家族様、職員参加によるサービス担当者会議を開催し、意見を反映しながらケアプラン作成や見直しを行っている。	3か月毎の見直しを行い、フロア会議で話し合いグループラインや申送りノートで共有している。家族の意向や本人の希望を盛り込んだ現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等はケア記録アプリに入力し、日誌を作成し、申送り時やフロア会議時に職員間で情報を共有しながらケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の状態やご家族様の状況の変化により、契約している居室の移動等を行い、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍においてボランティアの方の来所を控えている為、特にホーム内でご利用者様の意向を確認しながら日々のレクリエーションに工夫を凝らして行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族様の要望等を主治医に伝えている。必要に応じ情報提供書を作成している。提携病院には職員が通院に同行し、日常生活状態等を伝え、関係作りを築きに努めている。緊急時は家族の意向を十分に聞き入れ対応している。	これまでのかかりつけ医の受診は家族対応としている。協力医療機関はすぐ近くにあり、月1回の受診時には職員が同行している。同様に歯科も近いので職員同行の対応を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理や対応の仕方等、アドバイスを得ながら介護職員と連携を図っている。看護師と職員との連絡ノートを作り質問等があった場合は役立てている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様の入院時は、情報提供書の提出や入院先に面会に行き、家族と連携しながら、必要に応じ病院関係者と情報交換を行い、入院後に留意しなければいけない点等を確認し合い、退院後の支援に役立てている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合にはご家族や主治医にはその都度状態を報告している。生活に関する意向の中に、終末期について意向を確認している。	入居時に看取り対応についての説明を行い、希望や状況により看取りまでの支援を行っている。重度化に際しては家族に十分な説明を行い、チームで支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを策定している。急変時はマニュアルに沿って慌てる事なく対処している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時対応マニュアルや、職員緊急連絡網、防災計画を作成し、それに沿った訓練を行なっている。夜間想定避難訓練等も行っている。	年2回の防災訓練を行っており、1回目は11月に入居者と一緒に夜間想定訓練を実施し、2回目は3月を予定している。水や食料品の備蓄を行っており、災害時の避難については町や協力医療機関と連携を取り合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様、一人ひとりの気持ちや思いを尊重し、ご利用者様の気持ちに即した介護支援を心掛けている。	管理者は入居者を敬うことを常に呼び掛けており、言葉使いに配慮し、大声を出さないよう注意をしている。入室時のノックやトイレへの声掛けにもプライバシーに配慮するよう指示をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の会話の中から得られたご利用者様の思いや希望は連絡ノートを活用、申し送りやフア会議等で職員全体で話し合い、思いや希望に沿える様な支援ができる様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日をどう過ごしたいか、ご利用者様の意向を尊重しながら見守り、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ、おしゃれは、衣類の中からご利用者様の希望を聞きながら職員が支援している。必要な物はご家族に報告し協力を得ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや配膳の準備、後片付けもご利用者様と職員と一緒に取り組んでいる。食事の希望を取り、可能な限り、希望した食事が提供できる様に努めている。年3回合同誕生日会を行い特別食を提供し楽しんで頂いている。	入居者の嗜好に対応できるよう努めており、盛り付けや片付けなどを手伝って頂いている。コロナ以前は外食に出掛けたりしていたが、現在は弁当を取り寄せたり、中庭の菜園で収穫した野菜を料理するなど食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医や管理栄養士の指導の下、ご利用者様の持病を把握し食事や水分の摂取量を確認・調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼、夕食後1日3回の口腔ケアを実践している。ご利用者様一人ひとりの力に合わせて見守り、声掛け、介助を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様一人ひとりの力や排泄パターンに合わせ、見守りや誘導を行なっている。その取り組みで清潔を保つ事ができ、かつ、自立に向けた支援ができる様に努めている。	個々の排泄パターンに合わせてトイレに誘導し、本人の希望に沿った支援を行っている。職員は排泄の自立に向け、声掛け誘導に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や運動を行い便秘予防の取り組みを行なっている。排便表の記入により排便状態の把握、申し送りの徹底を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者様一人ひとりの希望や湯の温度など職員が理解しており、入浴の時間などはご利用者様毎に伺いし、希望に添えるよう努めている。季節によっては菖蒲湯等も行っている。	週3回入浴を基本とし、午後に4～5名の方の支援を行っている。失禁などの際には状況に応じて随時対応をしている。季節を感じて頂けるよう、菖蒲湯やゆず湯などの提供をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節の変わり目など、寝具やアンカや電気毛布の配慮を行い、気持ちよく眠れるよう支援している。ペットセンサーを導入し、夜間の転倒リスクに備えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬後の変化や状況を把握し、受診時には主治医に報告、相談を行っている。服薬時のマニュアルが整備され、誤薬等が発生しない様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の入居前の生活歴等を把握し、一人ひとりに合わせた役割や楽しみを支援内容に取り組み、楽しみや気分転換がある生活を過ごせるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の身体に合わせた散歩を取り入れている。季節感を味わって頂く様に定期的ドライブに出掛けている。ご家族の協力の下、個人の希望に沿った散歩の支援を行っている。	コロナ禍ではあるが、できるだけ多くの外出支援を行っており、ドライブや天気の良い日には近くの鳩山町農村公園まで歩いて出掛けている。家族の面会時に連れ出している方など、個人の希望に沿った外出の支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物同行は現在控えている。ご利用様が希望の買物がある場合は職員が代行して購入。おやつ類や嗜好品、衣類など家族の了解を得ながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用様が電話を掛けたい意向があるときにはいつでもできるように支援している。知人への手紙が出せる様に支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	平屋作りで共有の空間からは中庭や周りの景色をみることで季節を感じる事が出来る。浴室は床暖房になっており、冬場、他居室やリビング等との温度差のないよう考慮している。	リビングから台所が見え、畳のコーナーがある。毎月入居者とその季節をモチーフにした貼り絵などを作成し、廊下に飾っている。中庭に家庭菜園があり、部屋から眺めて季節を感じて頂いている。温度や湿度、採光など環境に配慮し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で一人で過ごせたり、居間や居室等を利用して自由に過ごしたり、会話を楽しんでいる。各ユニットは自由に行き来ができ、ユニットに関係なく交流し会話を楽しめる様に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家具や使いなれた馴染みの生活用品等持込が出来る旨をご利用様、ご家族様に説明し、一人ひとりの好みに応じた居心地よく過ごせる様に配慮、工夫に努めている。	入居時に使い慣れたものや好きなものを持ち込んで頂いている。小さなタンスや一人掛けソファ、家族の写真などを飾り、居心地よく過ごせるよう支援をしている。職員は毎日掃除や片づけを行い、清潔を保っており、出来る方には一緒に行って頂いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のないバリアフリーの建物で、車椅子でも自由にホーム内を移動できる。手すり等が設置されている。台所が広く作られており、ご利用様が食事作りに参加しやすくなっている。		

## 目標達成計画

作成日: 令和 4 年 1 月 30 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	コロナ禍において定期的な運営推進会議が開催できていない現状がある。長寿福祉課や地域包括支援センター等密に情報交換を行いホームの運営に反映させサービスの向上に活かしていきたい。	意見交換を行うことで、地域問題を把握する。利用者様の支援の取り組みを強化出来る様にしていく。	①定期的に長寿福祉課、地域包括センター担当者と会う機会をとり、ホームの状況報告を行い助言等を頂く。 ②自治会長や民生委員、ご家族等と情報交換を行い、地域住民にとってグループホームの役割等の意見を今後のサービスに活かしていく。	12ヶ月
2	49	外出の支援が減っている。一人ひとりの希望に沿った支援を実行していく。散歩等含め、日常生活の中で自然に身体機能維持、向上出来るように取り組んでいく。	利用者様に沿った支援を行う。その際は本人の身体に合わせた移動の工夫を行う。体操の時間は一人ひとりに向き合い身体状況の確認変化を見逃さない様に努める。	①外出支援の意識を高めるように日課として散歩を取り組んで行う。 ②利用者様が楽しく参加できる体操を組み入れて意欲をもって参加することで身体機能の維持を図るようにしていく。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。